

■鉄鋼標準化センター

活動報告

1. トピックス

1. 国際標準化関係

1. ISO/TCでのISO9000シリーズへの取り組み
(1993年3月開催のテクニカルボードの決議-25/1993)

①ISO/TC176の役割は一連の全般的なQuality management standardを維持する事。
つまりQuality management standardの整合性に対して全体的に責任を持ち、ISO内のTCがISO9000の原理から外れた場合それをテクニカルボードに報告する責任がある。

②ISOはそれぞれの分野で要求されるQuality management standardに対応しなければならない。その場合その標準は適切なTCがISO/TC176と緊密に協力しあって作成されなければならない。

2. JISC第201回ISO部会(4月26日)

TB会議報告の中で、ウィーン協定実施状況の例として'93年3月現在でISO, CENの共同作業を行っている項目は以下の通りであることが報告された。

(1)共同作業を行うことが確認されたもの
ISOリード：140件、CENリード：39件

(2)並行投票を実施中のもの

ISOリード：31件、CENリード：4件

ISO/TC67(石油、天然ガス用材料及び機器)の最近の主要な活動状況

(1)第14回ISO/TC67総会(1994年)の日本引受け

ISO/TC67議長の要請を受けて、国内態勢を確立するため、工技院主催の準備会(5月26日開催予定)において石油関連業界と共同での総会開催が実現出来るように計画している。さらにTC67各SCへの石油業界の参加を働き掛けることにしている。

(2)次回ISO/TC67/WG2(認証システム)会議の日本開催。本年7月19～21日予定の国際会議に対し、会議場の予約等、必要な処置を完了、WG2 Convenerへ連絡。

(3)TC67/SC1(ラインパイプ)

DIS 3183-1(ラインパイプ-品質水準A(API Spec 5L相当)のDIS投票への日本の対応前回会議にてDISとして処理の合意がとられていないことを指摘し、API規格との整合性の維持のため規定値換算の数値の丸め方その他を次回SC1会議で再討議することを要求。

(4)TC67/SC5(油井管)

(a)DIS 11960(石油、天然ガス用のケーシング、チュービング)ISO中央事務局にてDIS投票の手続きを完了(投票期限10月8日)、図面の整備はSC5/WG1 Secretaryと相談。

(b)SC5/WG2(油井管の継手性能評価)及びSC5/WG3(耐食用油井管)の第1回会議をそれぞれ5月24、25日及び6月1～3日に開催させることにし、日本としての対応策を取りまとめた。

(c)第3回TC67/SC5国際会議

時期 9月20、21日。場所 Dusseldorf。

Draft agendaを作成、ISO中央事務局にSC5Pメンバ、O-メンバ及びLiaisonに配布を要請。主要議題はWG1、WG2及びWG3の活動状況及び問題点の討議。

2. 国内標準化関係

1. 平成5年度における公示検査を受けるべき指定商品。通産省告示119号(H5-3-25官報号外)により鉄鋼は次の3品目、検査実施期間はH5-5-17～H6-2-28としている。

・圧延鋼材(G3101, G3103, G3106)

・鉄筋コンクリート用棒鋼(G3112)

・鋼製電線管(C8305)

2. 平成5年度JIS原案作成委託

日本規格協会から、JIS見直し調査骨子通知票を受理した。見直し調査目的は、「JIS G0551(鋼のオーステナイト結晶粒度試験方法)外38件について国際整合性の調査を行い、改正、廃止、確認のいずれかを決定する。また改正が容易なもの等にあつては、そのJIS原案を作成する」となっており、今後鉄鋼JIS三者委員会で審議される。

2. TC17幹事国業務

1. 国際規格発行に関する進捗状況

(1)規格発行についてSC議長の設定がなされたもの：1件

DIS6931-1(SC4)バネ用ステンレス鋼-パート1線(04-06)

(2)SCがDIS登録を申請したもの：3件

CD 4998(SC12)構造用連続溶融亜鉛メッキ鋼板(04-16)

CD 12094(SC19)圧力用途用溶接鋼管-溶接鋼管用 鋼板の超音波探傷試験(04-14)

CD 12095(SC19)圧力用途用継目無及び溶接鋼管-浸透探傷試験(04-14)

(3)新作業項目が登録されたもの：2件

WD 13583(SC11)遠心鑄造鋼管(03-26)

CD 4998* (SC12)構造用連続溶融亜鉛メッキ鋼板(04-16)

* Amendment. DIS登録のため中央事務局に提出

2. TC17全般

(1)ISO/TC17/EC会議準備(1993年6月9、10日、パリ)

会議Agenda、討議資料をECメンバーに送付。4月27日諮問部会にて内容報告。

今後の予定：5月末迄に最終コメント入手。事前検討実施。

(2)TC17内のchairmen及びsecretaryの最新リスト(つづき)

TC17/SC20 Secretariat:UK

chairman :Mr. S. Falconer

secretary :Miss. S. Boughey

3. TC17/SC1幹事国業務

1. 承認段階(Stage4)：

(1)DIS 10702(N-蒸留滴定法)；ISOゲラ刷りを中央事務局にて準備中。

(2)DIS 10698(Sb-無炎原子吸光法)；DIS投票中。締切1993-05-19

(3)DIS 10697-2(Ca-原子吸光法)；DIS投票完。締切1993-04-29

(4)DIS 10700(Mn-原子吸光法)；DIS投票中。締切1993-06-30

(5)DIS 10701(S-吸光光度法)；DIS投票中。締切1993-06-30

(6)DIS 439(Si-重量法)；DIS投票中。締切1993-08-11

2. 委員会段階(Stage3)：

(1)CD 10278(Mn-プラズマ)；コンビーナーが最終CD作成完。事務局にて仕上げ中。

(2)CD 10719(GC-燃焼赤外線吸収法)；コンビーナーが最終CD作成中。

(3)CD 10720(N-融解熱伝導率法)；再予備実験開始(04-12)。学振と共同予備実験。

(4)CD 11652(Co-原子吸光法)；再共同実験中。締切1993-05-30

(5)CD 11653(Co-電位差滴定法)；近日共同実験開始予定。

(6)CD 4941(Mo-吸光光度法)；CD投票完。反対なしで承認。(03-31)

3. 作成段階(Stage1/2)：

(1)WG 32(Ni, Cu, Co-ICP法)；共同実験準備中。

(2)WG 33(Mo, Nb, W-ICP法)；近日共同実験開始予定。

(3)WG 34(微量B-吸光光度法)；近日共同実験開始予定。

(4)WG 35(微量B-ICP法)；近日共同実験開始予定。

(5)WG 36(高S-HFIR法)；共同実験用WDコメント整理中。

4. その他

(1)Ad hoc group 14-1(微量C)；共研「鋼中微量炭素定量法研究小委員会」結果待ち。

(2)Ad hoc group 14-2(XRF-基準法)；共同実験準備中。

(3)Study group(OES, XRF 日常法)；ECISS/TC20にてWG結成。ISO/TC17/SC1 Resolution204に従って、日本、USA、Canadaがこれに加わり、精度決定の共同実験はISOとして行うことで調整中。

(4)ECISS/TC20会議に出席1993-4-19/20
ISO/TC47/SCI WGs会議に出席1993-4-21
出席者：新日鉄先端研 小野主幹研究員及び事務局

4. TC67/SC5幹事国業務

1. 第3回TC67/SC5国際会議(1993-09-20/21於デュッセルドルフ)のDraft Agendaを作成。中央事務局に対し正式に発行するよう依頼。

2. TC67/AG3の日本代表登録

第12回TC67総会で決議されたAG3発足に対して日本代表を登録。AG3は各規格に共通した事項について、その規格作成が本質的なものか、またTC67の各SCに新規項目として適当かどうか検討するグループで、コンビーナーはオランダが実施。

3. 4月14日TC67/SC5諮問部会第1回WG2(継手性能評価試験方法)開催。

第1回ISO/TC67/SC5/WG2国際会議(5/24、25於デュッセルドルフ)への対応審議。

4. 4月14日TC67/SC5諮問部会第1回WG3(耐食用油井管)開催。

第1回ISO/TC67/SC5/WG3国際会議(6/1～3於ミラノ)への対応審議。